

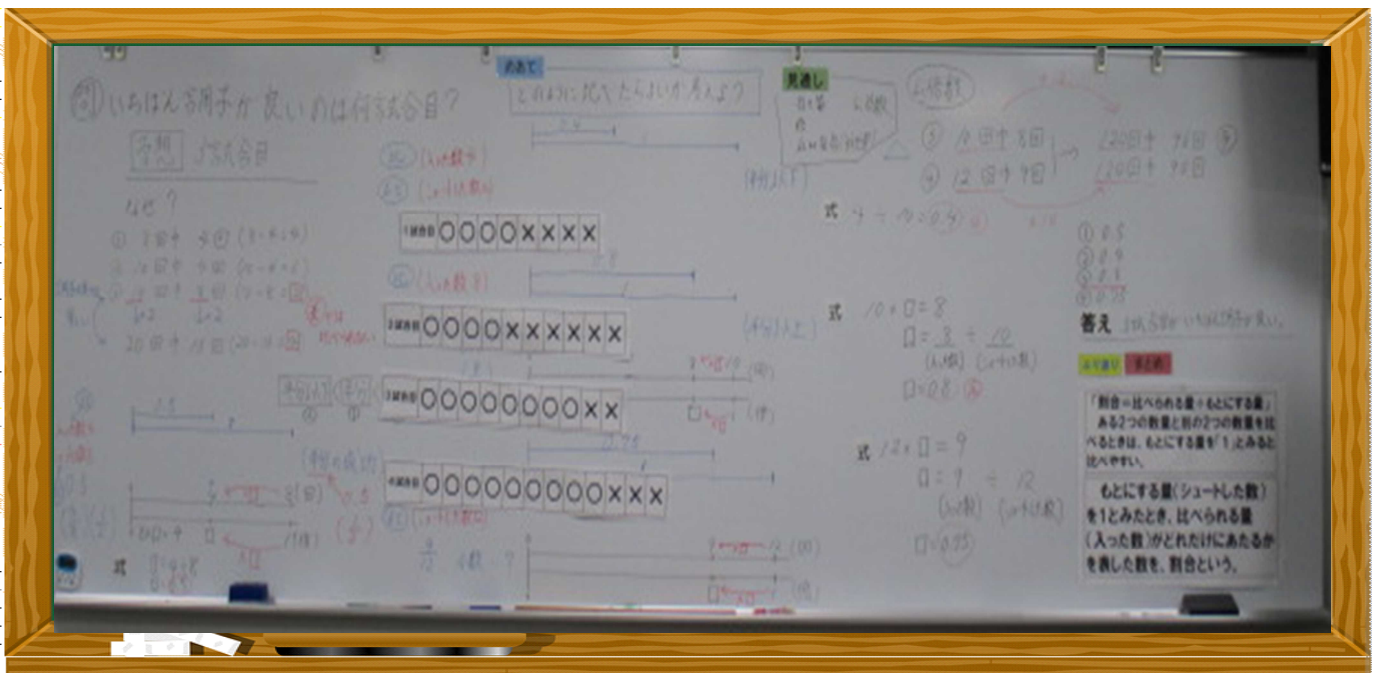
授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!! 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ



平成30年8月28日(火)
西部教育事務所

8月28日(火)に清水小学校において、教材研究会が行われました。算数科における三大成人病とも言われているほど、全国的にも課題である『割合』の導入場面についての授業が提案されました。

夏休み中にもかかわらず、他校から参加して下さった先生方も見られ、自ら学びを求め、自己を高めていこうとする姿勢に感心させられます。



今回の授業

土佐清水市立清水小学校 5年「比べ方を考えよう(2)」 松本教諭
割合の導入場面の提案授業でした。全国学力・学習状況調査などにおいても、毎年正答率が低いという結果などからも、子どもたちにとって理解しづらい単元の一つでもあります。そこで、バスケットボールのシュート数と成功した数をもとに、日常場面を算数の問題に定式化して、割合の意味や価値に気付かせようとする展開を試んでくれました。



授業者の声

新学習指導要領の読み込み不足により、教材のとらえ方、扱い方が根本から違ってしまったので、新学習指導要領の趣旨理解を行う必要があることがわかりました。

また、算数の三大成人病を未病で収めるという意識を持ち、学びの系統を見つめ直していきたい。そして、「問うべき問いは何か？」というように、無自覚的に判断している事の裏側にある数学的アイデアを明らかにすることを大切にしていき、子どもの脳をフル回転させて、熱く考えさせる授業が行えるよう、日々精進していきたい。



参会者の声

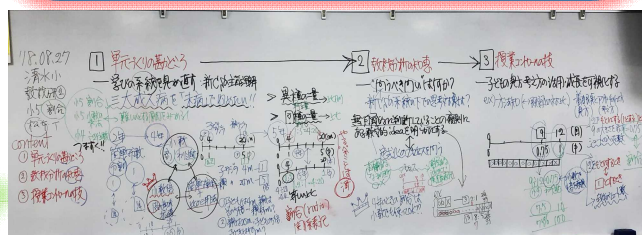
新学習指導要領をもとに考えると問いが変わってくるのが実感を持ってわかりました。現学習指導要領と新学習指導要領を見比べながら、変わった所、また、その意図をしっかりと把握しながら、単元計画を立てていきたいです。

また、今まで以上に問い、めあて、まとめを意識した授業づくりを行うことを頑張りたいです。

参会者の声

難しいといわれている割合を学びの系統を見つめ直し理解させ、いろいろな場面でも対応できるようにしていける力を付けていくことが大切だということを学びました。

(土佐清水市外 B 教諭)



齋藤先生からは、以下のような指導（一部抜粋）をしていただきました。

(1) 単元づくりの勘どころ

- ◎「三大成人病（①割合・②小数の乗除・③2桁でわる除法）を『未病』で収めるには！」
- ・子どもが難しいとする原因を見つめ直し、積み上げておく必要があるもの（2年：簡単な分数、4年：小数、小数倍、簡単な割合など）を丁寧に押さえていく。
- ・新学習指導要領において、4年までの内容をきちんと押さえれば、従来の5年の割合の単元の入り口で指導すべき内容は終わっている。新学習指導要領を基本とし、5年の割合の入り口をどのように組織するのがポイントである。

(2) 教材分析の知恵

- ◎「新学習指導要領の系統性をふまえると思考対象は何になるのか？」
- ・新学習指導要領では、割合の問題を解き明かす知識・技能は備わっているの、それを活用できるかどうかのポイントになる。定式化へのプロセスとして、「4年の時の割合は小数でも使っているのか？」を問い、直観的な判断にあるものを数学的アイデア（図・数直線など）を用いて、より確かなものにしていくことが大切である。

(3) 授業コントロールの技

- ◎「子どもの見方・考え方の活用・成長を可視化する」
- ・今回の板書は内容（手続きや処理した技能）の板書であった。どこに目を付けたのか、学習対象とどのように関わったのかを可視化していく必要がある。

「10・11月の学び場」のお知らせ

10月30日(火) 入野小授業研究会(PM)

11月 2日(金) 中村中授業研究会(PM)

11月 9日(金) 片島中授業研究会(PM)

11月15日(木) 清水中授業研究会(PM)

11月16日(金) 具同小授業研究会(PM)